

平成24年度岡山大学学位記等授与式 式辞

本日ここに、ご来賓の方々、また多数のご家族・ご父兄の皆様に、ご臨席をいただき、平成24年度岡山大学学位記等授与式をとり行いますこと、卒業生、修了生の皆さんはもとより、本学にとりまして、誠に嬉しく、喜ばしいかぎりであります。

本学を代表しまして、心より、皆様方にお喜びを申し上げます。

卒業生ならびに修了生の皆さんの長年にわたる研鑽が実り、皆さんの履歴に岡山大学卒業という輝かしい経歴が加わる日でもあります。そして、皆さんと私たち教職員が、地域、社会に対して新たな責任の共有を始める日でもあり、心引き締まる思いであります。

心からお祝いを申し上げますとともに、これまでさまざまな形でご支援いただきましたご家族の方々、関係各位の皆様にご心から、お慶びとお礼を申し上げます。

本年度の岡山大学の学部卒業生は2,323人、大学院修了生1,028人、総勢3,351人に達します。本学が、これほどの多くの逸材を育成し、これからの日本を支えるべく人財を社会に送り出し得たこと、学長として大きな誇りであります。そして、同じ岡山大学を卒業した同窓生として、皆さんが全学同窓会の仲間に加わることに、こころから歓迎の意を表したいと思えます。

今日、皆さんは、新たな決心をし、希望に満ちて、世界への扉を開き、あなた方の輝くべき人生の始まりをスタートさせたことと思えます。

これからの日本は、あなた方の“輝き”にすべてがかかっております。

今日の日本社会は、“輝き”を失いつつある厳しい状況であることは、皆さんも承知でありましょう。1990年代以来、日本は失われた10年といわれ、さらにこの10年、輝く勢いを失いつつ20年になろうとしています。

追い打ちをかけるように、日本を襲った東日本大震災、福島原発事故、まだ、深い傷が癒えるには程遠い、まさに試練の時といってよいと思えます。

日本という国の輝きを取り返す。これは、これからの、あなた方に課せられたミッションであります。あなた方が輝いた人生を送ること/あなた方が、小市民的な思考を捨て、大志を抱き、輝きを放つ事/あなた方が内を向かず、世界の扉を開き、グローバルに輝き続ける事が、すなわち日本が輝く事にほかなりません。

この世に存在するすべての事象は変化から免れず、生命も、物質も、時間とともに同じ状態では存在できません。

「この世で不変なものは変化のみ」

逆説的ですが、まさに真実であります。

私たちは、常に変化を強いられています。努力を怠り、じっとそのまましていると必ず悪い方向に変化していきます。良い方向に変化するには、絶え間ない努力が必要であります。

今日、卒業を迎えられた皆さんは、入学時より努力を重ね、間違いなく変化をとげ成長をしてきました。卒業という言葉は、英語では Graduate、“ある場所から、一歩前に進む”という意味であります。小学生以来、学生時代には常に学年があり、階段を登るごとく一年ごとに Graduate してきました。しかし、これからのあなた方には学年はありません。今日が最後の Graduate from Okayama University であります。これからのあなた方の進歩、成長を評価するのは、あなた方が果たした変化のみです。変化しないものに成長はありません。「変わった」という言葉こそが、最高の褒め言葉であると、私はいつも思っております。

私たちの人生は「偶然と運命」によって左右されています。皆さんは全くの偶然によってこの世に生まれてきました。医学的にも皆さんの持っている遺伝子は全く偶然によって作られ、自分では変えようもありません。そして、おそらく、今までにも、少なからず運命に左右されてここまで来たことでしょう。偶然と運命は私たちにはどうしようもありません。

「自らの意思で選択をすることだけが、明日の自分を創ることが出来る。」

偶然と運命の中、その時々皆さんが下した選択によって、人生は大きく変化します。

2011年3月11日、日本中に、また世界中に大きな衝撃を与えた東日本大地震は我々に大きな試練を与えた、運命でありました。二年がたった今でも、多くの人を苦しめ、大きな傷跡を残しております。その時に下した判断が多くの皆さんの生と死さえ分けました。原発事故もその時の判断によって大きな違いが生じていたでしょう。

運命は避けられませんが、運命を予測、想像することは科学で可能であります。「想像を超えた」という事実は、科学の力不足と判断力の欠如でありまし

た。

皆さんが岡山大学を選んだのも運命ではありません、皆さんの判断です。その時々判断こそが、皆さんの人生を変化させる大きな要因です。

皆さんの人生を有意義で、輝きのある、価値あるものに変化させるには、日々の判断力を磨かなくてはなりません。この判断力に影響するのは教養であり、科学、知識、倫理、宗教、いわゆる、Liberal Arts、自由な文化、つまるところ、日々の勉強であります。専門知識のみでは人生を輝かせる判断はできません。

必ずしも、多くの選択肢があることが良い判断を導くとは限りません。過去の多くの偉人達は、偶然と運命の狭間で、数少ないチャンスの中から、貴重な選択をして成功を修めています。常に準備している者だけが、数少ないチャンスを自分の判断で、手に入れる事が出来ます。

Steve Jobs が 2005 年、Stanford 大学の卒業式で行ったスピーチはあまりにも有名です。彼が生まれた偶然とその後の運命は、決して恵まれたものではありませんでした。彼は養子に出された両親の貧しさゆえに、大学を半年で退学するという選択をしました。卒業はしませんでした。退学後も彼は自分の好きな事、興味のある講義だけを大学で受講して勉強を続けていました。彼のこの判断が、彼の将来を決定づけていたことは、後になってわかったことあります。自分の好きなこと、将来必ず自分のためになると信じたことを頑張ることが、将来において成功を成し遂げるチャンスにめぐまれる事になります。

輝く人生を得るには、自分が素晴らしいと信ずる仕事をする事です。素晴らしいと信ずる仕事は、自分の好きな事であるべきです。好きな事は、いくら苦勞をしても苦になりません。好きな仕事が、もし見つからなければ探し続けることです。Stay foolish/ Stay hungry、「愚直であれ、貪欲であれ」という有名な言葉を彼は講演の最後に残しました。現状に妥協するな、満足をするなという事です。

私にとっては、自分が素晴らしいと信ずる仕事、好きな仕事、それが医学、医療、医師でありました。

「死は必ずやってきて、古き物を廃し、新しき物を作る」

同じ講演で、彼が述べた「死」についての考えです。彼はすい臓がんを患い、肝臓移植まで受けながら、一昨年 56 歳でこの世を去りました。この講演のとき、すでに彼はがんに冒されており、死に直面していました。

だれも死にたいと思っている人はいません。しかし、かつて死を免れた人も

いません。死は、この世の中に「変化」を確実にもたらす、最高の仕組みであり、古いものが消え去り新しいものに道を開くものであります。必ずあなた方の時代が来るということです。

私は医師で、長い間、医学を勉強して、医療に携わり、「生」のために尽くしてきました。死よりも生のほうがはるかに不思議な現象で、生きる事の方がはるかに困難な事であることを常に思い知らされてきました。そして、人によって与えられた生の時間は異なります。私たちに与えられた生の時間は、この宇宙、人類の歴史の中では、一瞬の出来事でしかありません。今、この瞬間を大切にしないと、すぐに次世代にバトンタッチの時が来ます。

あなたが輝くためには「自分の置かれた環境は自分で作る」必要があります。自分で変化を遂げる必要があります。

今日は、あなた方の人生が、新たに大きな変化が始まる日でもあります。好きな事に最大の努力をしていれば悲観することは全くありません。それがあなた方の人生であり、あなた方の運命であり、あなた方の選択です。その選択した点と点が必ず繋がるときがきて、人生の輝きを増していきます。

これから先、今日の日に戻ることはできません。明日が有るのみです。

自分に降りかかる環境は、すべて自分の問題です。他人のせいにはしない。他人の悪口を言わない。他人を責めることで、自分を正当化しない。自分の輝きは、他人との比較ではありません。自分に与えられた偶然と運命の中から、自分で選択をして、いかに輝くかです。

「国があなた方に何が出来るかを問うのではなく、あなた方が、国に何が出来るかを問うてほしい。」

50年前、私が中学生の時、Kennedy 大統領が就任式で行った演説の一節です。まさに、日本という国が輝きを取り戻すためには、あなた方自身が、何が出来るかを判断し、変化をとげ、輝きを身につける事で達成されます。

最後に

私は、昭和 49 年に岡山大学を卒業しました。今から 40 年前の事であります。私は岡山大学を卒業したこと、岡山大学で学んだことを誇りに思っています。自分の人生が輝いていたかはわかりません。少なくとも、私自身が選択をした仕事に誇りをもち、岡山大学で学んだ事に強い感謝の気持ちと誇りを持っております。

いつの瞬間も、「過去に何をしたかが大切ではなく、これから何をするかが、**人の輝きを決める**」と信じています。

岡山大学もこれから大きく変化を遂げていきます。世界に扉を開いた、岡山大学の美しいキャンパスは、あなた方が、再び今日という日を思い起こしながら、輝きを増した姿で、この地に帰ってくることを待っています。

平成 25年 3月 25日

国立大学法人岡山大学長 森田 潔